

2021 年度も引き続きコロナ禍での活動を強いられる形となりました。アーティストや文化団体は徐々にではありますが知恵と術を身につけ、コロナに対応した芸術活動を模索し続けた 1 年でした。そのような中、ASK は「伴走型支援」を掲げ、アーティストや団体の声に耳を傾け、彼らに寄り添いながら、状況に応じた支援を行ってまいりました。2021 年度は、寄付者のファンドから支援する「個別寄金助成」において 15 件・650 万円、特に指定のない寄付から支援を行う「一般公募助成」において 13 件・500 万円を助成しました。

個別寄金助成 寄付者が設置した個別のファンドから助成を行うもの

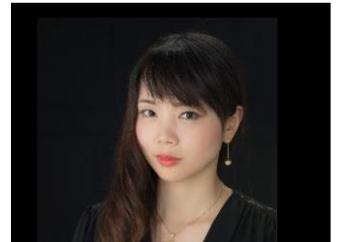
岩井コスモ証券 ASK 支援寄金助成（8 件 400 万円）

国際的な活躍が期待できる関西ゆかりの 35 歳以下の若手アーティストら個人に対し、演奏会や展覧会の開催をはじめ、作品制作、リサーチ、機材購入など様々な芸術活動を支援。対象分野は、美術・デザイン、音楽、伝統芸能の 3 分野。

谷原 菜摘子（たにはら なつこ）（美術）

助成額：70 万円
場所：上野の森美術館（東京）ほか
実施期間：2021 年 5 月 26 日～6 月 6 日

活動概要：この世界の「負の領域」や「闇」を意識し、不安や恐怖を想起させる独自の世界観によって近年大きな注目を集める。2018 年京都市芸術新人賞、2021 年京都府文化奨励賞、および大阪のすぐれた若手芸術家に贈られる咲くやこの花賞を受賞。上野の森美術館など東京 2 か所で個展を開催。会期の変更を余儀なくされたが専門家から好評を博した。また人形劇団「結城座」（東京）の人形デザインも担当し活動の幅を広げた。
谷原さんからの声：上野の森美術館での個展開催や「咲くやこの花賞」受賞など充実した 1 年となりました。



西條 茜（さいじょう あかね）（美術）

助成額：50 万円
場所：アートコートギャラリー（大阪市）、ギャラリー@KCUA（京都市）など
実施期間：2021 年 5 月 21～7 月 24 日（大阪）、9 月 1 日～9 月 19 日（京都）

活動概要：世界各地の陶磁器をリサーチし、その歴史的な文脈などをモチーフに作品を制作するほか、陶磁器の表面と内部の関係性から虚構とリアリティの考察を喚起させる作品制作などにより注目を集める。当初はロシアに滞在しレジデンス制作および展覧会を行う予定であったが、コロナにより延期となり、アートコートギャラリー（大阪）やギャラリー@KCUA（京都）など国内の多くの展覧会に参加。精力的に作品発表を行った。
西條さんからの声：ロシアへの渡航ができず残念ですが、国内の展覧会で作品を発表する機会をえました。



田中 秀介（たなか しゅうすけ）（美術）

助成額：30 万円
場所：田中秀介スタジオ（大阪市）
実施期間：2021 年 6 月～2022 年 3 月

活動概要：日常の中の微細な違和感や些細な経験などをもとに独自の絵画表現を展開。近年その活動が高く評価され、2020 年に出身地和歌山の和歌山県立美術館で個展を開催。2021 年は南丹市にあるオオエヤマ・アートサイトで個展を開催したほか、2022 年に大阪市立自然史博物館において収蔵品と田中の作品を同時に見せる同館初の現代アートの展覧会が予定されており、そのための作品制作を行った。
田中さんからの声：助成金を 15 点の大型絵画の木枠購入などに充てることができ、とても助かりました。



野原 万里絵（のほら まりえ）（美術）

助成額：50 万円
場所：渋谷ヒカリエ（東京都）、国際芸術センター青森（青森市）、上野の森美術館（東京都）など
実施期間：2021 年 6 月 17 日～29 日（東京都）、8 月 19 日～9 月 1 日（青森市）、2022 年 3 月 11 日～3 月 30 日（東京都）

活動概要：自ら制作した道具や紙俵を使い他者との協働作業を取り込みながら絵画制作を行う。Tomio Koyama Gallery が企画する渋谷ヒカリエのグループ展への参加、昨年から継続して取り組む青森の海岸の石についてのリサーチ、また上野の森美術館で開催される選抜形式で若い世代の平面作品を見せる展覧会 VOCA2022 への参加など、大阪・北加賀屋の Super Studio Kitakagaya を拠点に充実した制作活動を行った。
野原さんからの声：東京で 2 つの展覧会に参加し、より多くの方々に作品を観ていただくことができました。



堤 拓也 (つつみ たくや) (美術)

助成額：50万円
場所：旧銀鈴ビル（福知山市）／山中 Suplex（滋賀県大津市）
実施期間：2021年10月8日～11月7日（福知山市）

活動概要：滋賀と京都の県境の山中にある若手作家たちの共同アトリエ「山中 suplex」を拠点に活動するキュレーター。東京のギャラリーLEESAYAでの「血の塩/Salt of the Blood」展、および福知山駅前の旧パチンコ店を会場にした「余の光/Light of My World」展などを企画。いずれも聖書の言葉に触発され企画した展覧会で、前者では主に彫刻を、後者では絵画をメインに取り上げた。また「余の光」展の記録誌の制作も行った。
堤さんからの声：助成で「余の光」展の記録誌制作が可能となり、展覧会を形に残すことが出来ました。



Photo: Kai Maetani

笹岡 由梨子 (ささおか ゆりこ) (美術)

助成額：50万円
場所：ギャラリー@KCUA（京都市）、TRAFO（ポーランド）
実施期間：2021年9月1日～9月19日（京都市）、10月7日～2022年1月16日（ポーランド）

活動概要：CGと実写の人形を融合させたコミカルでシュールな映像作品を制作し注目される。ギャラリー@KCUAでグループ展「Lost in Translation」を自身で企画し参加したほか、ポーランドのシチエチンにあるTRAFOで、昨年コロナで延期になった自身初の海外での個展「Zniknij Z Ziemi（地球から消える）」を開催。コロナ禍の厳しい状況の中で、無事に開催にこぎつけることができた。
笹岡さんからの声：ポーランドの個展ではユーモアと批評性を併せ持つ作風が想像以上の好感触を得ました。



堀江 牧生 (ほりえ まきお) (音楽)

助成額：50万円
場所：大阪市など
実施期間：2020年4月～2021年3月

活動概要：関西を拠点に活動するチェロ奏者。モスクワ音楽院で学び、その後2018年までロシア国立ボリショイ劇場楽団員として活躍。現在は同世代の関西の演奏家たちに声をかけ積極的にコンサート活動を行っている。自身初のCD制作に取り組み、モスクワ音楽院時代に知り合った入江一雄、沼沢淑音、佐藤彦大の3名の第一線で活躍するピアニストを招聘して収録を行ったほか、また収録曲を中心としたコンサートもあわせて開催した。
堀江さんからの声：初CD制作に向けて3名のピアニストを招聘し、とても充実した演奏と録音ができました。



乾 将万 (いぬい まさかず) (音楽)

助成額：50万円
場所：兵庫県立芸術文化センター（西宮市）、枚方市総合文化芸術センターなど（枚方市）
実施期間：2022年7月3日（西宮市）、11月3日（西宮市）、2022年3月6日（枚方市）

活動概要：茨木を拠点とするピアニスト。ハンガリー国立リスト音楽院にハンガリー政府給費生として留学。企画にも精力的に取り組み、兵庫県立芸術文化センターでのピアノ・デュオリサイタルのほか、バレエの身体性によって音楽を描出する試み「継往開来」（同センター）を3年越しで実現。リハーサルは100回近くに及び、同世代の演奏家やダンサーらとともにバレエと音楽の新たな可能性を模索した。
乾さんからの声：助成金をどのように使うかなど、ご相談にのっていただき、助かりました。



八千代電設工業伝統芸能支援寄金助成（1件50万円）

能狂言における青少年への教育普及を目的とした事業を支援

「夏休みキッズ夏休みキッズ能楽体験教室」（伝統芸能）

助成先：杉江能楽堂を活かすプロジェクト実行委員会
助成額：50万円
場所：杉江能楽堂（岸和田市）
実施期間：[能囃子・太鼓教室]2021年8月18日 [お能体験・能楽堂体験]8月22日

活動概要：小学生・中学生を対象に能の魅力をわかりやすく伝える体験教室を2日間にわたって開催。能囃子と太鼓は中田弘美氏、能体験は林本大氏ら関西で活躍するプロの能楽師が直接指導。参加した子供たちは、囃子の道具「太鼓」を実際に使ってのお稽古や、能舞台でのすり足など普段なかなか触れることのない能の世界を実際に体験した。
ご担当者からの声：父兄から「本物の能舞台上がれて良い夏休みの経験になった」などの声を頂きました。



寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金助成（1件 50万円）

上方落語の若手噺家の育成を目的として毎年天満天神繁盛亭で開催される上方落語若手噺家グランプリを支援

「第7回上方落語若手噺家グランプリ 2021」（伝統芸能）

助成先：公益社団法人上方落語協会

助成額：50万円

場所：天満天神繁昌亭（大阪市）

実施期間：予選 2021年7月6日、13日、20日、27日 決勝 2021年9月28日

活動概要：2015年に上方落語の若手噺家の育成を目的に500万円の寄付で設けられたファンドから、毎年天満天神繁盛亭で開催される「上方落語若手噺家グランプリ」に対して50万円を支援。2021年度で7回目を数え、関西の若手噺家の登竜門として定着。コロナ禍の中、昨年に引き続き変則的な日程での開催となったが、予選・決勝の結果、グランプリには桂小鯛さん、準グランプリに桂二葉さんがそれぞれ輝いた。



上町台地現代アート創造支援寄金（1件 50万円）

大阪の上町台地にまつわる歴史、宗教、文化などのさまざまな様相を現代アートを通して浮かび上がらせる活動を支援

厄災・信仰・美術 ～上町台地の祈願の歴史～（美術）

助成先：湯川洋康

助成額：50万円

場所：TRA-TRAVEL ギャラリー（大阪市）

実施期間：2022年3月12日～3月19日

活動概要：2020年度からの継続助成。「厄災を乗り越えることに寄与した信仰」「信仰を可視化する視覚芸術」に着目し、人の内面の精神や信仰を現代につなげる試みとしてリサーチを行い、その成果として展覧会「アノ ヒダマリニテ」展を北加賀屋のTRA-TRAVEL ギャラリーで開催した。エッチングや映像作品を通して、西方浄土信仰にまつわる死生感の輪郭をえがき、過去の厄災とコロナ禍との接点を浮かび上がらせた。**湯川さんからの声：**厄災後に頼りにした信仰と人々の営みが想像以上に豊かであったことを実感しました。



日本電通メディアアート支援寄金（4件 100万円）

総額100万円を、新たな価値観や萌芽性をはらんだメディアアート作品の制作費として支援

おおしまたくろう

助成額：30万円

場所：パララックス・レコード（京都市）など

実施期間：2022年3月25～4月3日

活動概要：ノイズを社会規範の外部にあるものにとらえ、ノイズによるアート表現の可能性を探るべく、社会の淵に存在するスケートボードにエレキギター機能を組み合わせた楽器「滑琴」を制作。京都のレコード店で行われた展覧会では、実物の「滑琴」の展示のほか、実際に本人がライドしノイズを生成させながら大阪市内を疾走する様子を収めた映像も見せた。また、そのスケボー楽器の音を受信しネットで配する移動式のアンプ「響筐」と耳型マイク装置「擬似耳」も制作。アート装置としての社会的機能の考察を行った。**おおしまさんからの声：**今後、「滑琴」の量産化を視野に入れた取り組みもしていこうと思っています。



今村 遼佑（いまむら りょうすけ）

助成額：10万円

場所：アトリエみつしま（京都市）

実施期間：2021年10月1日～2021年10月31日

活動概要：盲目のアーティスト光島貴之氏が企画した「それはまなざしか」という展覧会に参加。和室の畳に点在するように微小なLEDを埋め込み、それぞれを木漏れ日などの実際の光を計測したデータにて明滅させるインスタレーションと、小枝や石、鉛筆など身の回りのものを取り付けた装置を壁のあちこちに設置し、時折壁を叩いて音を生じさせるインスタレーションの2作品を制作した。視覚的な要素と聴覚的な要素を主な素材としながら情報量を極小に絞ることによって、観客に感覚に対する新たな気づきを与える展示となった。

今村さんからの声：感覚をテーマとしましたが、幅広い層の人から良い反応があり収穫を得ました。



三原 聡一郎 (みはら そういちろう)

助成額：20 万円

場所：京都セラ美術館（京都市）

実施期間：2022 年 1 月 29 日～2 月 13 日

活動概要：音、泡、放射線、虹、微生物、苔、気流、土、水、電子など、物質や現象を「芸術」へと読みかえ、世界に対して開かれたシステムとして提示。今回、KYOTO STEAM 採択事業として mui lab 株式会社とコラボし、コロナ禍で新たな様相を帯びた「空気」を芸術表現の領域ととらえた作品「空気の研究 II」を制作し、KYOTO STEAM コンペティション展で展示した。作品は円形ベンチの形状をしており、座ったままベンチを回転させると地球上の都市とリアルにつながり、それによってその距離を充たす空気の存在を想起させた。
三原さんからの声：企業とのコラボはとても楽しかったですし、さまざまな新しいアイデアも生まれました。



久門 剛史 (ひさかど つよし)

助成額：40 万円

場所：ハワイ・トリエンナーレ 2022（ホノルル市、ハワイ）

実施期間：2022 年 2 月 18 日～5 月 8 日

活動概要：ハワイで開催された大規模国際展「ハワイ・トリエンナーレ 2022」に、アジアや環太平洋地域など世界中から招かれた 43 人のアーティストのひとりとして参加。阪神大震災、東日本大震災、そしてコロナ禍の経験から、「生」を生きるための一時停止を意味する《Pause》と名付けたインスタレーション作品などを展示。大きな空間に垂れ下がる布と照射される光によって、生きる意味について、立ち止まり、問い直すことを喚起させる作品となった。コロナ禍による会場変更や渡航の制限など様々な困難を乗り越えて実現した。
久門さんからの声：本作品のコンセプトが海外でも響いた実感があり、渡航した意義がありました。



一般公募助成

(13 件 500 万円)

サポーターズクラブの会費や自動販売機からの寄付など、特に使い途の指定のない寄付から支援

金 サジ (きむ さじ) (美術)

助成額：40 万円 主な活動：写真シリーズ「物語」の制作、写真集制作にむけての準備活動など

場所：Lumen Gallery（京都市）ほか

実施期間：2021 年 12 月 21 日～12 月 26 日

活動概要：2018 年より始めた歴史・文化・ジェンダー・格差といった社会の諸様相を形作る様々な「物語」を、入念に作り込んだ設定のもとで制作する写真シリーズに引き続き取り組んだほか、コロナ禍のシンボリック存在であるアマビエをテーマにした映像作品「AMA ウィルスとうたう」の制作も行い、その一部を Lumen Gallery で展示。「物語」シリーズは、写真集として出版されることとなり、そのための準備にも取り組んだ。
金さんからの声：支援のおかげで活動ができることを感謝しています。作品集を楽しみにしててください！



小出 麻代 (こいで まよ) (美術)

助成額：30 万円 主な活動：個展「月に、日に」展の開催

場所：ギャラリーVOU/樺

実施期間：2021 年 10 月 9 日～10 月 31 日

活動概要：様々な場所に赴き、場所そのものや、そこに関わりを持つ人とのやり取りを起点に「記憶」や「時間」にまつわるインスタレーション作品を手掛ける。個展「月に、日に」では、暦にかかわる月と日、光と影、そして長い時間を超えて続く人の営みなどにまつわるさまざまなイメージを生み出し、それらを空間全体をつかったインスタレーション作品として構成した。

小出さんからの声：助成によって機材の購入が可能になり、温めていたプランを実現することができました。



荒木 優光 (あらか まさみつ) (美術)

助成額：60 万円 主な活動：思弁的マンネリ解消プロジェクトなど

場所：城崎国際アートセンター（豊岡市）ほか

実施期間：2022 年 3 月 26 日（城崎国際アートセンター）

活動概要：音響と映像と組み合わせたインスタレーションなど、美術と舞台の双方にまたがった領域横断的な活動を行う。コロナ禍を機に、さらなる新しい表現の方法論の獲得を目指し、思弁的にマンネリを解消するプロジェクト「トーキングヘッズ（仮）」を城崎国際アートセンターに滞在しながら制作。その成果を、同センター全館を使い、舞台上のパフォーマンス、映像、サウンド、テキストなどの複合的表現として発表した。
荒木さんからの声：新たな価値観やフォーマットを感じてもらう、自分らしさが出せたように思います。



Photo: Kai Maetani

黒田 大スケ (くろだ だいすけ) (美術)

助成額：30万円 主な活動：公共彫刻のリサーチなど
場所：京都市内および関西圏（成果発表「and Domani 村上友重+黒田大スケ」広島市現代美術館）
実施期間：[リサーチ]2021年11月～2022年1月、[成果発表]2022年1月8日～2月13日

活動概要：東アジアの彫刻の概念に興味を持ち自身の彫刻の在り方を模索。その視点から形作られる「彫刻」は、映像やパフォーマンスなど含むインスタレーション的な形態をとる。今回、京都および関西圏にある公共彫刻の霊性をテーマに、作品および彫刻家の両面からリサーチし知識と体験として自身に取り込み、そこから作品の制作を試みた。その成果を広島市現代美術館の展覧会で発表した。

黒田さんからの声：とても良い作品が出来ました。今後も多くの人に見てもらえるように努力していきます。



公益財団法人大阪市音楽団 (音楽)

助成額：40万円 主な活動：第139回定期演奏会
場所：ザ・シンフォニーホール（大阪市）
実施期間：2021年11月28日

活動概要：1923年に誕生した100年近い伝統を誇る交響吹奏楽団。Shionの愛称で親しまれる。第139回定期演奏会は、世に200曲以上の吹奏楽曲を送り出したアメリカの作曲家アルフレッド・リードの生誕100周年を記念したオール・リード・プログラム。《序曲「春の猟犬」》、《「ハムレット」への音楽》など全5曲を演奏。人気のリードの楽曲ため、チケットは早々に完売。コロナ禍の中、多くの観客をうならせる熱演となった。

ご担当者からの声：企画・演奏ともにお客様から多くのお褒めの言葉をいただき、勇気づけられました。



公益財団法人関西フィルハーモニー管弦楽団 (音楽)

助成額：40万円 主な活動：第326回定期演奏会
場所：ザ・シンフォニーホール（大阪市）
実施期間：2022年3月25日

活動概要：2011年より、楽団創設50周年の節目に向けて、指揮者の飯守泰次郎とともに取り組んできたブルックナーの全交響曲を毎年1曲ずつ演奏するチクルスの最後を飾る演奏会。本来は2020年に行われる予定であったがコロナで延期となっていた。今回の「第00番」と「第0番」はブルックナー自身の封印により演奏される機会が非常に少ない曲であるが、演奏は圧巻の熱演となり、観客からも多くの賞賛が寄せられた。

ご担当者からの声：東京の識者からも「大変な名演だった」との声をいただき、今後の励みとなりました。



© S. Yamamoto

河合 温美 (かわい あつみ) (音楽)

助成額：20万円 主な活動：子どものためのコンサート「ばばばパーカッション！～でかけよう打楽器の旅へ」
場所：シーサイドホテル舞子ピラ神戸あじさいホール（神戸市）
実施期間：2021年9月18日

活動概要：学生サークル神戸大アートマネジメント研究会が、子どもたちに本格的なクラシック音楽を届けようと企画から当日の運営までを行うコンサート。今回で14回目。打楽器博士の案内で時空を超えた打楽器を巡る旅に出るという設定で、4名の打楽器奏者を招き、楽器の紹介や奏法の説明、手拍子による観客参加のパートなどを盛り込み、子どもたちの好奇心を刺激しながら演者と一体となって楽しめるコンサートを作り上げた。

河合さんからの声：子どもたちが生の音楽を聞いて、クラシックの魅力を感じ取ってもらえたら嬉しいです。



曽根 知 (そね とも) (舞台芸術)

助成額：30万円 主な活動：ダンス公演「No Man's Land」の公演
場所：ロームシアター京都ノースホール（京都市）
実施期間：2021年10月2日、3日

活動概要：バレエを素地に、イスラエルと京都を拠点に活躍するコンテンポラリーダンサー。今回の公演は、コロナ禍における身体表現について思考をめぐらし、オンラインや自宅での作業を続けながら、新しい映像表現を取り入れるなど表現方法にも工夫を凝らして実現させたもの。映像として見せたパフォーマンス作品では映像的な趣向を取り込むことで、身体表現に可能性の幅を持たせることにもなった。

曽根さんからの声：自身にとっても有意義な公演でした。文化庁芸術祭参加公演にも選出いただきました。



Photo: 井上 嘉和

エイチエムピー・シアターカンパニー (一般社団法人 HMP) (舞台芸術)

助成額：30万円 主な活動：〈仮想劇場I〉『夜、ナク、鳥』のオンライン上演
場所：ウィングフィールド（大阪市）およびオンライン
実施期間：[試演]2021年5月27日、[本番]2021年7月16日、17日、18日

活動概要：コロナ時代を踏まえ、ズームのオンライン会議機能を利用した「仮想劇場」を構築し、大竹野正典作「夜、ナク、鳥」をオンラインで上演。演者はオンライン上の個別の仮想空間で演技をし、それを画面上で一つに統合して鑑賞してもらう形態。物理的接触のない方法でありつつ、個々の俳優間のインタラクションによって演劇のダイナミズムを仮想的に立ち上げようとする試みとなった。

ご担当者さんからの声：可能性の一方、演者と観客が空間を共有する演劇の本質的な大切さも感じました。



ナナン・アナント・ウィチャクソノ（舞台芸術）

助成額：50万円 主な活動：インドネシアの影絵芝居ワヤンとガムラン「マハーバーラタ〜カルナの一生」
場所：箕面市立文化芸術劇場小ホール（大阪府箕面市）
実施期間：2022年2月23日

活動概要：インドネシア・ジャワの伝統的影絵芝居ワヤンの人形遣いで、現在は関西を拠点に活動するナナン・アナント・ウチャクソノの公演。伝統的な演目「マハーバーラタ」を、新たな脚本・演出・音楽で再構築。アニメーション映像を取り入れた斬新な構成と音楽を担当したタルマ・ブダヤの書き下ろしのガムラン音楽によって、コロナ禍で移動の制限がかかる中、エキゾチックで幻想的なファンタジーの世界を現出させた。
ナナンさんからの声：新たな可能性の手応えを感じ、日本でワヤンの魅力を広めることに寄与できたと思う。



劇団五期会（舞台芸術）

助成額：30万円 主な活動：劇団五期会第74回公演「The Merchant of ZIPANG」
場所：ABCホール（大阪市）
実施期間：2021年12月3日、4日、5日

活動概要：NHK 専属劇団を母体に1973年に立ち上げ、来年2023年に50周年を迎える。「The Merchant of ZIPANG」は、シェイクスピアの「ヴェニスの商人」をもとに、舞台を16世紀後半の大阪に移し、人間の業や流転する人生の儚さを描いた。演出ではディスタンスへの配慮と差別・格差への批評性を盛り込み、翻案劇としてさらに踏み込んだ内容に挑戦した。また主演の俳優は関西俳優協議会の最優秀新人賞に選ばれた。
五期会からの声：シェイクスピアの名作の翻案に手ごたえを感じ、次回はハムレットに挑戦します。



吉田 玉翔（よしだ たましょう）（伝統芸能）

助成額：70万円 主な活動：人形浄瑠璃「文楽夢想 継承伝」
場所：国立文楽劇場（大阪市）
実施期間：2021年8月7日

活動概要：人形遣いの吉田玉翔を中心に、若手の技芸員たちに経験を積ませることを目的として、若手とベテランが通常の枠を超えた配役で演じる文楽初の試み。若手中心の自主公演として、太夫と三味線では若手がシン（中心）を先輩がスソ（脇役）をつとめ、人形では師匠と弟子、親と子が対等な役で共演。文楽史上初の試みとしてメディアでも大きな話題を呼んだほか、今後の展開にも大きな注目が集まることとなった。
玉翔さんからの声：普段は叶わない配役が実現し、若手演者にプラスの心境の変化が生まれたと思います。



Photo: 桂 秀也

榎茂都 梅弥月（うめもと うめみづき）（伝統芸能）

助成額：30万円 主な活動：榎茂都流型付研究会2021
場所：自宅稽古場など（大阪市）
実施期間：2021年4月～2022年3月

活動概要：上方舞・榎茂都流に創流時から受け継がれてきた多くの譜本「型付」が現在、大阪歴史博物館に保存されており、2017年から榎茂都梅弥月が中心となって、流派独自の振付書を正確に解読できる人材の育成のための勉強会を毎月開催。そうして年に数曲ずつ復曲を試みており、若手舞踊家がそれらを譜本と照らし合わせながら稽古を重ねている。
梅弥月さんからの声：コロナ禍の中、資料の整理やオンライン開催など試行錯誤をしています。

